

市民参加型 ZOOM会議 意見概要
テーマ「人口減少を見据えたまちづくり」

日時:平成2年6月19日(金) 19:00~20:30

主催:湖南省総合政策部地域創生推進課

場所:湖南省役所東庁舎大会議室

まちづくり・行政に対する意見など

○参加者

小学生からずっと住んでいる。会社を作って思うのは、おもしろいことは人それぞれ違う。自分はそれが外国人と触れ合える場所で、何とかシェアハウスを作った。みんなが小さいことを簡単に始められ、モチベーションだけで終わらず、いろいろな人が関わりたいと思えるまちになればと思う。

○参加者

3. 11にボランティアで東北に行ってから地域っておもしろいと思うようになった。また、結婚して子育てが大変と思うようになった。子育てを地域で担えないかと思った。自分は祖母、地域の人に育てられた。学校や地域で勝手に育つような社会になればと思っている。

○参加者

まちで子育て、買い物をし、暮らしていくことがまちづくりそのもの。みんながまちで生活することそのものがまちに影響を与えていると意識するだけでいい影響を与えるのではないか。エリアノベーションのイベントがあれば家族で参加している。子どもがまちにかかわることで教育になる。まちの人を増やしていきたい。

○参加者

10年以上前に菩提寺でまちづくり塾を立ち上げた。どんなまちにしたいと聞いたところ、安心、安全に住めるまちにしたい、豊かな文化のまちにしたいとの意見が出た。そのようなまちにするためには、その地域の人間が積極的に行動する必要がある。私はブラスバンドを作った。現在まちづくり協議会は7つの地域に分かれ、自分たちのまちは自分たちで作ろう、自分でやれることは自分でやろうと熱心に取り組んでいる。長くて10年、短くても6.7年の歴史がある。

○参加者

意見だけでなく、行動することが大事。自分はこのまちをどうしたいとかはない。自分事感を出せる人を増やしたい。外から関わられる時代にはなっているので、ファンの人が出る、海外からまちづくりに参加する人が出るなど、住んでいない地元にも興味を持ってもらうようにする

必要がある。例えば、バーチャル上のまちを作るといったの方法もあるのではないか。教育は大事。小さい時は地域と接点持ちやすく、距離も近く、人を育てることは目に見えてできる。大きくなるにつれて地域と接点がなくなっていくので、その時どうかかわっていくか、地域愛をどう継続させていくかが課題。

○参加者

法律があるのは分かるが、行政は意欲を消すような邪魔だけはしないでほしい。厄介なことに巻き込まれるなら断っている方が良くと思うのではなく、市民と共犯者になってもらえたら。行政の役割はモノ・カネではなく、不必要な規制を緩和することだと思っている。

○参加者

ビジネスプランコンテストはあるのか？可能性のある所にきちんと投資、成長を応援するような仕組みを作ってもらいたい。観光はどこに行くかイメージができない。湖南省にこういう人がいて、こういう会社があるというものがあつたらいい。湖南省は「どこ？」って話になる。知らないからこそこれから何か打ち出せるのではないか。湖南省としてではなくても事業で打ち出せたらいい。

○市

ビジネスプランコンテストはないが、市民の方に政策を提案してもらい、市政に反映する機会として、政策コンテストがある。

○参加者

まちづくりは地域おこし、お祭りと思われがちであるが、行政は利害調整、権利の間の調整を行ってほしい。40年後の2060年を考えると、働き方は税制度など色々変わっている。時代に振り回されず、普遍的なことへの取り組みが大事。公平性も大事で、担保するためには透明化、共存を模索する必要がある。市民と行政の間ではまずは議論の仕方について共有する必要がある。市は上げ足を取られてたくないと思っているかもしれないが、市民側も上げ足を取らないようにしないといけない。私が提案する「よくみえ〜るプロジェクト」では、市民の透明性と市民からのフィードバックを図ることが大事と考える。どのようにお金が使われているか分かると市民も納得するのではないか。HPを調べたが、湖南省は決算書が載せられていない。キーワードは税金を払いたくなる湖南省。それが市民の自発性につながる。また、「みんなでやる♥プロジェクト」として、市行政内部の仕事を市民がボランティアでやることを提案したい。ただ、行政は市民の意見を聞かない。なんでも市民にやってもらったらいいのではないか。

○参加者

行政に求めているのは、補助金、調整ではない。道路を使いたいといっても、面倒だと思って断られないこと。市民が来てくれてありがとう、やってくれてありがとうと言われることが大事。各担当者が悩んでいることをウェブ上に挙げ、市民に頼ってもらったら良いと思う。そうすれば、

輪も広がっていく。

○参加者

若い時 10 年間鹿児島、大阪、東京と色々住んでいた。外から見たふるさととは大事。行政も含め、湖南市をいいまちにするため俯瞰で見ることができる人が増えていくことが大事。今は住んでいる人の息遣いが見えてこない。山がある川があるだけでは魅力は少ない。湖南市には歴史の古いものもあり、掘り起こして伝える。歴史を理解して地域を作ってきた人の思いを検証する必要がある。若い人にも考えていただけたらと思う。

○参加者

子どもはおいしいレストランがあつたらいいなと言っていた。金太郎あめみたいなまちではなく、個性豊かな個人の飲食店があればいいねと子どもと話していた。

○参加者

妻は今までの話は自分にとっては壮大過ぎて、身近ではないと話していた。いわゆる意識高い系のグループで入りにくいと。住んでいた鳥取は知り合いおらず、縁もゆかりもない地域だったが、児童館に行けば、同じ子育てをしているお母さんたちと交流ができた。逆の立場で湖南市でどこかと聞かれても紹介できない。

○参加者

おもしろみがない、湖南市に何もないと答える人が多い。個人で店を出せるまちになればいい。日々の消費活動で地元の人を応援する、投票するという意識を持つことが大事。

○参加者

外から人を連れてくるより、中にいる人のサポートをする方が大事だと感じた。若い人がいるのに個人商店が少ないのは、そういう仕組みがないからだと思う。湖南市は便利すぎる、行政のサポートが充実している。だから日本人と外国人が関わらなくても生活できる。大規模小売店舗、24H スーパーが出来たり、食生活の安心安全があるためか、危機感がない。僕らがおもしろいことをすることが課せられた役割だと思っている。車社会なので草津とか近隣に勤務できる。湖南市に住みたいと思われるようなまちづくりをしていきたい。

○参加者

「どうして好きになってくれないのプロジェクト」の調査で、地元就職したい理由の1位は「地元が好きだから」だった。企業があるかないかの理由ではなかった。どうして好きになってもらえないのか、それはまちのことを知らないからだと思う。私の仮説では、人や地域となじめないなど、社会関係的、文化的要因があるのではないかとと思っている。湖南市は中途半端な都市部。集団になじめないことが引きこもりの要因にもなる可能性もある。

○参加者

まちづくり協議会を利用して地域の人が集まりやすい雰囲気のある場所にしてほしい。行政が規制を作るのではなく、地域の人が自主的に運営できる方法を考えてほしい。今後高齢者が増えていくが、高齢者が参加できる受け皿を作ることが大事。

○参加者

まちづくりを意識高い人のものになっているのはダメ、もっと透明化を図る必要がある。そうじゃないと自分のこととして思えない。もっと情報を出さないといけない。

○参加者

市民の間では、行政に言ってもしょうがないと思っている。行政は既存のことに変えることに抵抗がある、職員は市民の話をクレームではなくてもクレマーととられがち。クレマーかいい意見かを判断できる能力が必要である。湖南市は情報、メディアがないので、関心がない。

○参加者

この会議について、参加はしたくないけど聞きたいと思っている人はいるのではないか。顔のアップさせよければユーチューブとかにあげたらいいのではないか。